

「日本語を教えるための日本語文法」

第7回-1

「今晚、勉強するつもりです」

山田 あき子

<http://yu-yu-jin.com/>

<https://www.facebook.com/yuuyujin.com/>

nihongo@yu-yu-jin.com

検討したいこと <~つもりです/~ないつもりです>と<~ます/~ません>との選択基準

提案したいこと 追い込む視点での <~つもりです><~ないつもりです>の指導

今回は<つもり>の指導について考えていきます。典型的構文は【【 】_{文1}つもりだ】_{文0}です。文1の文末の述語の活用形と文0の文末の述語だの活用形は<つもり>の使い方によって異なりますので、ここでは典型としての構文を示しておきます。

第7回は2篇に分けてアップします。第7回-1で、検討したいことを取り上げ、第7回-2で提案したいことを取り上げます。

1 「つもり」の用法について

<つもり>という語に焦点を当てると、辞書などには、終わり（例 酒宴も積もり）、見積り（例 工事の見積もり）などの用法とは別に、2項に分けて記載されている場合が多いです。一つはこころ組み、あらかじめ考えていること（『広辞苑』1998、『大辞林』1989、『現代国語例解辞典』2000、新明解国語辞典2000、他）、日本語を教えるための指導書、文法書には、事前に決意し固まっている意志（『日本語ハンドブック』松岡、他2001）、話し手自身の決意・意向（『日本語表現文型』森田、他1989）、心づもり（『基礎日本語辞典』森田2013）、教科書には、話し手の意志を表す（『みんなの日本語初級II 教え方の手引き』、自分の意志を述べる（『新文化初級 教師用指導手引II』）、強い意志（『にほんごチャレンジN4』『TRY! 日本語能力試験N4』）、intention・volition・future plan（『みんなの日本語初級II 翻訳・文法解説英語版』『げんき』『ともだち』、他）などと記載される意味・用法です。二つ目は実際にはそうではないが、そうなっているような気持ち（『広辞苑』1998、『大辞林』1989、『基礎日本語辞典』森田2013、他）などと説明されています。

問題提起

果たして、この記載にあるような文言で指導して、学習者にその用法を分からせられるのでしょうか。

本稿では、この問題提起を念頭に、<つもり>を使うことによって何が伝えられるようになるのかという視点で考えていきます。

辞書や日本語教育のための文法書などには、意味や説明と共に例文が挙がっています。以下にそこに併記されている例文と新たに筆者が作成した例文でその「伝えられること」を確認したいとおもいます。山田が作成した例文には(山田)と付しました。

- (1) 近いうちにお伺いするつもりです。（『大辞林』1989）
- (2) あした行くつもりだ。（『広辞苑』1998）

- (3) あしたの日曜日は動物園へ行くつもりです。(『国語学習辞典』1983)
- (4) 東都大学を受けるつもりです。(『新文化初級II』2006)
- (5) 買わないつもりです。(『ようこそ』1994)
- (6) うそを言うつもりはなかった。(『大辞林』1989)
- (7) 昨日やるつもりでした。(山田)
- (8) 買うつもりはありません。(『ようこそ』1994)
- (9) A: 謝ったらどうなの。
B: 謝るつもりはありません。(『日本語ハンドブック』松岡、他2001)
- (10) 死んだつもりで働く。(『現代国語例解辞典』2000) (『広辞苑』1998)
- (11) 分かっているつもりでしたが・・・。(山田)
- (12) 是非とも成功させるつもりだ。(『現代国語例解辞典』2000)
- (13) どうしても国へ帰るおつもりですか。(『基礎日本語辞典』森田2013)

この例文を「伝えられること」の枠組みで整理すると、以下の7つに分類できるのではないだろうか。

[伝えられること]

- 1** (1)~(5) これからすること
- 2** (6) したいと思っていたのではないのだが、そうってしまったこと
- 3** (7) 考えていた通りにはいかなかったこと
- 4** (8)、(9) そんな考えは毛頭ないこと
- 5** (10) 実際にするのではないが、そのような思いで行動すること
- 6** (11) 自分自身の動作行為に自信が持てなくなったこと
- 7** (12)、(13) 強く決めていること

各例文を**1**~**7**と分類できたように<つもり>は、複数の異なる「伝えたいこと」を表明するのに用いられることがわかります。「伝えられること」の異なりは、文1の述語および文0の述語だを活用させることによって表明されます。初級でまず取り上げられるのは**1**の用法ですので、本稿では**1**に絞って見ていきます。**1**の構文は以下のように整理できます。

- (i) 【【〜〜動詞一辞書形】_{文1}つもりです】_{文0}
- (ii) 【【〜〜動詞一ない形】_{文1}つもりです】_{文0}

本稿では、(i) (ii)を統合して、以後<〜つもりです>と提示します。

2 <〜つもりです>の【これからすること】を伝える用法

2-1 指導項目の提出順

これから行うこと、あるいは行わないことを伝える表現方法は、市川(2008)と分析の視点は異なりますが、市川(2008)が指摘しているように実は一つではありません。この2-1では指導項目の提出順の把握の重要性を上げますが、まず、以下の例で多様にある[これからすること]の表現方法を確認しておきます。日本語能力試験出題基準4級、3級(1997)、6種類の教科書、および日本

語能力試験対策系の書籍で取り上げられている文法を参考に検証してみます。

- 対話例 1 A：明日は何をしますか。
 B： a 動物園へ行きます。
 b 動物園へ行くつもりです。
 c 動物園へ行こうと思います。
 d 動物園へ行こうと思っています。
 e 動物園へ行きたいと思っています。
 f 動物園へ行くかもしれません。

a~f の応答はいずれも「明日は何をしますか」という問いに対して生じるであろう「伝えたいこと」を表明していますから、大枠として[これから行うことを伝える]表現方法に分類されると言ってもいいでしょう。日本語指導では最終的にはその a~f 各々の使い分けの選択基準を分からせなければなりません。ただし、導入の際の原則は、既習の表現方法と新規に導入する表現方法の選択基準を分からせることですから、指導項目の提出順の把握が必須要件になります。

以下に、調査した6種の教科書での提出順を見てみましょう。

表 1

		みんなの 日本語初級	新文化 初級	大地	東外大 ともだち	ようこそ	げんき
		課	課	課	課	文法	課
a	~ます ^{注1}	4	7	4	3	11	3
b	~つもりです	31	20	(25)	18	37	10
c	意向形と思う	31	20		18	37	15
d	意向形と思っている	31	20	30	18		15
e	~たいと思っている		20 ^{注2}				
f	~かもしれない	32	16	32			14
	総課数	50	36	40	24	—	23
	総文法項目数	—	—	—	—	46	—

注1 <~ます>は<~ません>を内包するものとします。

注2 <~たいと思っている>は例示としての対話文の中に現れていますが、それに関する規則・用法の記載はありません。

提出順は、表1にまとめたように6種の教科書中5種が<~ます>が先行し、<~つもりです>をその後に指導するように編集されています。すなわち、<~ます>→<~つもりです>の順になっています。<~つもりです>の指導と同じ課で<~意向形と思います><~意向形と思っています>を取り上げている教科書がありますが、いずれも大きな違いはない(『みんなの日本語初級II 翻訳・文法解説英語版』・『新文化初級 教師用指導手引II』)あるいは同じ(『ともだち』)と記載がありますので、本稿では<~つもりです>を取り上げて考えていきます²。

<~つもりです>の指導においては、<~ます>の表現方法との選択基準を分からせればいいことがわかります。<~つもりです>の指導以前に指導されている[これから行うことを伝える]表現方法は<~ます>しかないからです³。

導入の準備は、まず、学習者が既に表現できる「伝えたいこと」と、新規導入項目を知ることによって伝えられるようになる「伝えたいこと」を精査することから始まります。すなわち、何が伝えられるようになっているか、何が伝えられるようになるかから検討することになります。

2-2 <～つもりです／～ないつもりです>と<～ます／～ません>の違い

対話例 2 a、3 b を見てみましょう。

対話例 2 a A : 春休みに何をしますか。

B : 国へ帰るつもりです。

C : 国へ帰ります。

対話例 3 a A : 今晚、カラオケへ行きますか。

B : 行かないつもりです。

C : 行きません。

対話例 2 a、3 a での B の発話も C の発話もいずれもこれからすることを問われたのに対しての応答ですから、<～つもりです>も

<～ます><～ません>もこれからすることを伝える表現方法だということが追認できました。

冒頭に<つもり>に関する辞書などでの説明を記載しましたが、あらかじめ考えていること、決心し固まっている意志などがありました。しかし、そのことは<～ます><～ません>の用法についても同じだと言えます。「何をするのか」という問いかけに<～ます><～ません>で応答ができるのは、あらかじめ考えがあり、決心が固まっているからです。そうでない場合は、「わかりません」という応答になるでしょう。この点からあらかじめ考えを持っているときに<つもり>を使うと言われても学習者には判然としないのではないのでしょうか。また、強い意志という説明もあります。今回、本稿では例(12)(13)の用法には触れませんが、以下の対話例 4 にみるように<～ます>でも意志の強さを伝えることができます。

対話例 4 A : 引越しの手はずはわかっていますね。

B : はい、この部屋は私がします。任せておいてください。

対話例 5 A : 引越しの手はずはわかっていますね。

*C : はい、この部屋は私がするつもりです。任せておいてください。

辞書や日本語指導のための文法説明・教科書の説明では、両者の選択基準を分らせにくいのではないかと考えています。予定を記した手帳などを示して指導することもあるかもしれませんが、予定を書き留めておくのは、忘れてはいけないからである場合が第一義的であることを考えると、これも必ずしも理解されるとは言えないように思います。

[これから行なうことを伝える] という大枠の中で考えるとその違いが見えてきます。

<～ます><～ません><～つもりです>は [これから行なうことを伝える] という大枠に分類されますが、その伝えていることは決して同一ではありません。確認しておきましょう。

上掲の対話例 2 a、3 a を対話例 2 b、3 b のように改訂すると両者が「伝えていること」に違いがあ

ることが明確になります。

- 対話例 2b A: 春休みに何をしますか。
B: 国へ帰るつもりです。
C: { わたしは国へ帰ります。
*わたしも国へ帰ります。

- 対話例 3b A: 今晚、カラオケへ行きますか。
B: 行かないつもりです。
C: { わたしは行きません。
*わたしも行きません。

対話例 2b、3b の C の発話文での「は」「も」の使用による違和感の有無が<～ます><～ません>と<～つもりです>の異なりを示しています。

日本語母語話者であれば、<～ます><～ません>で表明される場合は、その表明されたことの実行が 100 パーセントであることを伝えているのに対し、<～つもりです><～ないつもりです>ではその実行性の確率が 100 パーセントだとは言いきれないことを伝えていると直感的にわかるでしょう。もう少し検証しておきましょう。

- 対話例 6a A: 朝ご飯用意ができていますよ。
B: はい。顔を洗ってから、食べます。

- 6b A: 朝ご飯用意ができていますよ。
B: *はい。顔を洗ってから、食べるつもりです。

- 対話例 7a A: 明日はしっかり朝ごはんを食べて来てくださいね。
B: 普段は朝ご飯を食べないのですが、・・・
A: 午前中に 10 キロ程度歩きますから、それは困りますよ。
あなたのために休憩を取ることはできませんから。
B: わかりました。明日は食べて行きます。

- 7b A: 明日はしっかり朝ごはんを食べて来てくださいね。
B: 普段は朝ご飯を食べないのですが、・・・
A: 午前中に 10 キロ程度歩きますから、それは困りますよ。
あなたのために休憩を取ることはできませんから。
B: *明日は食べて行くつもりです

- 対話例 8a A: 10 時までに来てください。
B: * 8 時の電車に乗りますが、乗り遅れたらすみません。

- 8b A: 10 時までに来てください。
B: 8 時の電車に乗るつもりですが、乗り遅れたらすみません。

対話例6のケースでは、Aの方はBが当然朝食を摂ることを前提とした発話であるのに対し、6bのBはその前提に応じる内容になっていません。違和感がなくかつ自然なやり取りを遂行する上で不適切な応答です。それは<～つもりです>を用いると、食べないこともありうることを伝えるからです。一方、対話例7のケースでは、Bに対し必ず食べることが要請され、その要請に沿うことを伝えなければならない状況にあります。それにもかかわらず、対話例6と同様に7bのBは食べないことがあり得ることを伝えており、不適切な発話内容となっています。

一方、対話例8では、「乗ります」と断言したことに、「乗れないこともある」と伝えることは矛盾しており、論理的不整合を起こしています。対話例8bでは<～つもりです>は乗れないこともあることを伝えていますが、論理矛盾はおきていません。対話例8aのBの発話を以下に対話例8a'のBに示すようにすると適切になります。それは、発話者は必ず乗ると言っていますが、電車が遅れるのは発話者自身の意志に基づく動作行為ではないことによります。

対話例8a' A：10時までに来てください。

B：8時に乗りますが、電車が遅れたらすみません。

3 これまでの検証のまとめ

<～ます／～ません>で伝えられること

表明するこれから行う動作行為は必ず行うこと

<～つもりだ／～ないつもりだ>で伝えられること

表明するこれから行う動作行為は必ず行うとは言えないこと

第7回-2では、本稿で検証された<～つもりです>で伝えられることを基礎に「追い込み」の考え方を踏まえた教案を提案します。

参考文献

教科書・マニュアル

『げんき』The Japan Times、2012

『大学の日本語 ともだち vol.1,2』東京外国語大学出版会、2017

『新文化初級ⅠⅡ 教師用指導手引書』文化外国語専門学校、2006

『日本語初級①② 大地 文型説明と翻訳英語版』スリーエーネットワーク、2010

『みんなの日本語 初級Ⅰ 翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク、2016

『みんなの日本語 初級Ⅱ 翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク、2014

『みんなの日本語 初級Ⅱ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク、2008

『ようこそ』McGraw-Hill, Inc., 1994

文法書・指導書

『初級日本語文法と教え方のポイント』市川 保子 スリーエーネットワーク、2008

『日本語ハンドブック』松岡 弘、他、2001

『日本語表現文型』森田 良行、松木 正恵 アルク、1989

『基礎日本語辞典』森田 良行 角川学芸出版、2013

『日本語能力試験出題基準』国際交流基金、1997

辞書

『現代国語例解辞典』小学館、2000

『広辞苑』岩波書店、1998

『大辞林』三省堂、1989

『国語学習辞典』光村教育図書、1983

『国語大辞典』尚額図書、1989

『新明解国語辞典』三省堂、2000

¹ 市川 保子 (2008) では、〈つもり〉を意志・意図を伝えると分析している。

² 森田 良行 (1989) にも〈つもりです〉と〈意向形と思っています〉は同じと記載がある。

³ 『新文化初級』(2006) では〈~ます〉とか【**【 文₁かもしれない**】_{文₀}】の違いは指導されているのですから、ここで指導すべきは〈~ます〉〈~ません〉と〈~つもりです〉の違いです。但し、[断定できない・断定しない]という括りでは、〈~つもりです〉も〈~かもしれない〉も同じ枠に入りますから、その点配慮は必要です。